

よび厩橋病院の歴史についての講義が行われていますが、それとは内容を若干変えてありますので、講義を聞いたことのある方も無い方も、お時間のあるときには是非一度ご覧になって頂ければと思います。展示を通して、私たちからはとうに失われてしまった明治の人たちの純朴としか言いようのないまっすぐな気持ちに思いを馳せて頂けるようであれば、このコーナーを作った苦勞が報われますので、何卒よろしくお願いたします。



院長 天谷 太郎

## 新年度冒頭のご挨拶

気になっていた疑問の答えを見つけることが出来ました。

積善会の創始者である遠藤海象は明治三十五年に「第一無縁亡霊千人合祀之塔（むえんぼううれいせんになごうしのとう）」を橋林寺（積善会の創立メンバーの一人である増田嘿童（へもくどう）の寺で、明治期の積善会本部が置かれていたことでもある）の境内に建てたのですが、その事実はどこにも記載されていなかったた

この塔はいわば現在の前橋積善会と明治時代の積善会を繋ぐかすがいとも言うべき重要な存在であると考えています。だいぶ脱線してしまいましたが、疑問は、この無縁亡霊千人合祀之塔に刻まれた「第一」という文言でした。第一とあるからには第二、第三があるのではないかと？少なくとも、わざわざ第一と書いたからには、第一を作る時点で第二、第三を作る予定があつたに違いない。果たしてそのよ

うな塔は存在するののか？存在するのならば一体どこにあるのか？もちろん一番可能性があるのは橋林寺なので、境内を丹念に探し回ったのですが、そのようなものは見つかりませんでした。他に探すべき宛てもなく、疑問はこの十年間宙ぶらりんのまま残されていたわけです。

この疑問が昨年末にひよんな事から解けましたので、この紙面を借りてご報告申し上げます。そもそのきつかけは、昨年の十一月でした。遠藤海象の書いた古い書物（明治四十二

年）を発見したのです。上にも記しましたように、明治時代の積善会の歴史にどっぷりの状況が続いていたため、久しぶりに「遠藤海象」をキーワードにネット上で検索をかけたところ、遠藤の著した「瓢鯨漫筆（ひょうくじまんびつ）」なる本があることが判明したので。これまでの同様の検索でヒットしなかったものが、なんでその時になって初めてヒットしたのか不思議なのですが、とにかくヒットしました。これまでその存在すら知られていなかった書物なのですが、それがたまたま運良く見つかり、しかも現物を手することもできました。そして、疑問の答えはその本の序文に書いてありました。ちょっと長いのですが、原文をそのまま抜粋します。

生死は人の影日なた、生有る者に限らずに、ぬかずきて死者にもつくさばや、老後の楽しみ無縁を集め、朝晩供養したならば、さぞや飲むことならん、亡霊養育院長と、自選肩書き自称して、無縁の仏はいうまでも、首くびるやら行き倒れ、井戸や川にて身を捨てし、

非業な最期を致したる、仏をここより譲り受け、千人あまり有る故に、千人塚を前橋の、橋林寺中に建立し、第二は千住の回向院、小塚原にしかばねを、さらせし哀れな諸仏を、まとめて地蔵を設立し、第三は愛宕下、青松寺内に新築し……（漢字等の表記は現代風にしております）



「百十二年目の出会い」発見された第三の千人塚「無縁亡霊塔」（明治三十九年建立）に手を合わせる栗木理事長と瀧澤前理事長。本年一月九日、東京愛宕の青松寺にて。